

建築版	1-6	着工時	設備工事： 鉄骨スリーブ・ 取付ピースの検討	電気	○	設備工事 ポイントシート (1-7)
				空調	○	
				衛生	○	
				その他	-	

鉄骨スリーブは構造設計と設備設計の確認チェックが必要で、時間を要します。そのための期間を忘れず見込みましょう。

ポイント

鉄骨発注は、工事初期(場合によっては着工前)に行う必要があります。また工事全てを左右する重要な項目であり、建築と設備が十分に連携して効率的に進めなければなりません。

■スリーブ、ピース位置の決定

- ・鉄骨発注に合わせ、スリーブ位置、取付ピース位置が決めるか、工程を確認します。
- ・スリーブ、ピース検討目的に絞った仮の総合図を作成することも場合によって必要です。
- ・予備スリーブが適切に設けられているか確認します。

■外壁仕上げ（パネル割り等）との取り合い

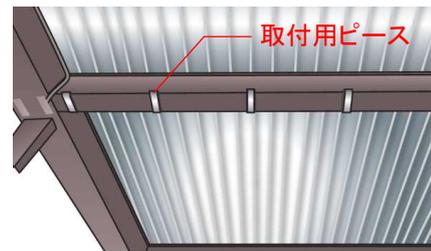
- ・外部に面する梁のスリーブ位置が外壁パネル割りなどと整合があるか確認します。

■取付ピース対象の明確化

- ①ダクト、配管吊り下げ固定用補助材取付用ピース
- ②避雷設備 引下げ導体溶接用ピース
- ③側壁取付避雷針ポール、TVアンテナポール等取付けピース



鉄骨梁スリーブの例



吊下固定用補助材取付用ピースの例

先輩アドバイス

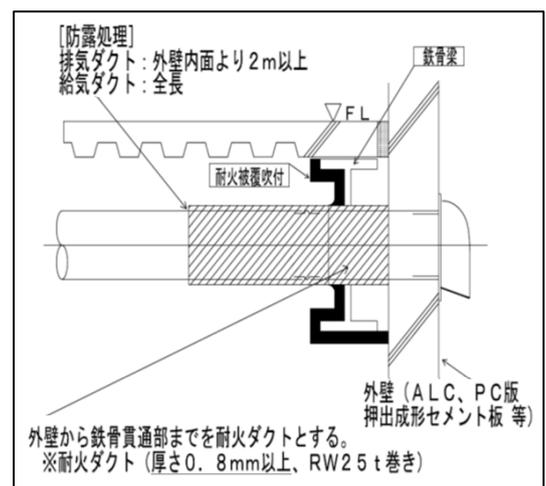
- ・鉄骨発注に間に合わせるため正確なスリーブ位置を決める必要があります。

チェック項目

- 鉄骨発注とスリーブ図、ピース位置図、外壁パネル割付図作成スケジュールは適正ですか。
- 鉄骨発注前にスリーブ位置、取付ピース位置等が適正か構造特記仕様書の制約条件を確認しましたか。
- 鉄骨発注前に外壁側梁スリーブ位置が外壁パネル等との整合が取れているか確認しましたか。
- 合成耐火被覆の箇所・施工方法を検討しましたか。

失敗すると...

- ・現状の鉄骨スリーブでどう納めるか検討する事態となり、多工種に渡る変更を余儀なくされます。
- ・現場で鉄骨スリーブを開けなおすことはできないと考えましょう。



合成耐火被覆工法の例

共通管理項目	合理化省力化	施工性向上	品質・性能向上	工期短縮・圧縮	コスト削減(材料)	コスト削減(労務)	設備先行工事	工事区分見直し	責任所在明確化
	○	○	○	○	-	-	-	○	○
備考	参考文献：						初版発行	2020年12月	
							改訂		